

日本選挙学会 ニュース・レター

Japan Election Studies Association

No.21 1998年12月

1997年末から98年にかけて

芹澤 功

今年5月の総会で、御承知のように役員が交代致しました。前役員のご苦労に謝意を表します。新進気鋭の新役員のご活動は、総会直後から始まっております。私だけが旧進気鋭で申しわけありませんが、初心にたちかえり、会員各位の御提言、御叱咤を賜りながら、学会の運営に当たるつもりでおります。

1997年末から98年にかけても、沢山選挙がありました。97年12月、韓国大統領選挙は、80%を超える投票率でした。かつて、東京から拉致され、ソウル市内に放置され、国家転覆陰謀罪などで死刑判決を受けたことのある金大中氏が激戦の結果選出されました。選挙は国を挙げてのドラマであることを実感させるものでした。

この学会の外国人会員の中で、韓国の研究者が一番多いのですが、一方、韓国選挙学会も発足したとのことですが、御同慶の至りです。交流の機会を得たいと思っております。

フィリピンの大統領選挙が、今年5月11日に終了し、公式集計・点検作業が完了したのが、6月29日で、エストラダ氏の当選が確定しました。集計作業も国情によって大変なところもある例といえましょう。

これに対して、日本の新聞社の「本社調べ」という報道も、「選管確定」「自治省発表」も実に速いと思います。7月12日に、参院選の投票・開票が実施されましたが、13日の朝刊に「橋本龍太郎首相.....責任をとって退陣する意向を固めた」と

いう記事があるのは誠に手まわしのよい反応といわざるを得ません。選挙結果を予想していたからではなさそうです。なにしろ、終盤情勢で、「自民伸び悩み」までは予想した新聞もありましたが、自民党が大きく過半数割れになることを予想した新聞はなかったから、一夜にして、首相辞任になったのです。最近投票所の出口調査が行われるようになって、考える時間ができたのかも知れません。有権者の投票行動は予想を超える人間臭さがあります。

この参院選で、投票率が14.3%ほど高くなって、「投票率低下に歯止め」と報じられましたが、以後投票率が上がる保証はないと思います。今回は(1)公選法の改正で投票時間の延長、不在者投票の条件緩和、(2)「選挙に行こう勢」などの投票率の向上運動、(3)衆院選に小選挙区が導入されて初めての参院選で、衆院の次期立候補予定者の小選挙区内での後援会の動員、(4)「寅年現象」等が重なったので、投票率が高くなる必然性はありました。としても、その投票行動の内容は充分解明されておりません。次の研究会で、この謎解を期待します。選挙後、日本の政治手法は分かり難くなりました。9月の選挙でドイツは16年ぶりに、連合政権の型がガラリと変わりましたが、その後の連邦議会のSPDと緑の党との連立協定の方が日本の手法より分かり易いのではないのでしょうか。

(せりざわいさお・武蔵工業大学教授)

1998年度総会議事録

第1日

日時 1998年5月16日(土)12時30分～12時55分
場所 学習院大学

1. 理事長挨拶

芹澤理事長より挨拶があり、94名の会員からスタートした1980年の獨協大学における日本選挙学会設立大会から数えて総会・研究会も今回で18回目となり、学習院大学での開催は2回目となったことが紹介された。

2. 開催校挨拶

大会開催校である学習院大学を代表して、砂田一郎理事・大会運営委員長から挨拶があった。

3. 1998～1999年度理事候補の承認の件

・1997年秋の理事候補者選挙によって、会員の投票によって選出された公選理事16名と、その16名によって構成される理事・監事候補者選考委員会が選出した7名の推薦理事、並びに監事2名の名前が芹澤理事長より紹介され、賛成多数で1998～1999年度理事・監事として承認された。
・承認された理事・監事については、「日本選挙学会新役員」の項(本ニューズレター5頁～6頁)を参照されたい。

4. 1997年度決算・監査報告の件

池田謙一及び平野浩両監事による監査報告の後、1997年度決算案が賛成多数で承認された。

5. 会員の選挙運動及び政治活動自粛の件

・学術団体としての本学会の政治的中立性を保つために、本学会会員が本学会の名前を用いて選挙運動を行ったり、政治活動を行ったりすることを自粛する旨の提案が芹澤理事長よりなされ、これを賛成多数で了承した。

・なお本件については、総会決議として、下記一文を本学会規約末に付加することも併せて承認された。

「日本選挙学会の政治的中立性を保つために、本学会の会員は、日本選挙学会の会員であることを政治活動や、公職選挙法第3条に定める公職の選挙の選挙運動に利用してはならない。」

6. 各委員会活動報告

企画委員会

研究会における報告者の努力により、レジュメ及び報告用論文の提出締切が守られたこと、研究会が順調に運営されていることなどが谷聖美委員長から報告された。

年報編集委員会

2月末に発行した第13号に関して、応募のあった19件中11件を審査の上採用し掲載したこと、来年2月末に発行予定の第14号に関しては、4月末の締切で18件の応募があったことなどが小林良彰委員長から報告された。

文献委員会

1996～1997年文献目録の編集と発行が会員各位の協力により、無事終了したことが酒井正文委員長により報告された。

7. 新入会員の件

・総会前に入会の申し込みのあった者に関し、理事会で審査した結果、11名の入会が承認されたこと、並びに15名の会員の自己都合などによる退会が理事会で承認されたことが報告された。

・上記の異動によって、現在の会員数は472名(内法人会員1社含む)であることが報告された。

第2日

日時 1998年5月17日(日)12時00分～12時25分

場所 学習院大学

1. 新理事長紹介・挨拶

総会に先立ち開催された1998 - 1999年度の新理事会の第1回理事会において、芹澤功理事が新理事長として、前期に引き続いて選出されたことが報告され、それを受けて芹澤新理事長が挨拶を述べた。

2. 各委員会委員長・事務局長選出の件

新理事長の紹介に引き続き、先の新理事会においてさらに、各委員会の新委員長が選出されたことが報告され、各新委員長が挨拶を行った。

なお、各新委員長は以下の通りである。

| | |
|---------|----------------|
| 企画委員会 | 蒲島郁夫理事(東京大学) |
| 編集委員会 | 田中愛治理事(早稲田大学) |
| 文献委員会 | 荒木義修理事(松阪大学) |
| 選挙管理委員会 | 森脇俊雅理事(関西学院大学) |
| 事務局長 | 河野武司理事(杏林大学) |

3. 1999年度総会・研究発表会運営委員長の件

1999年度総会・研究会を1999年5月中旬に秋田経済法科大学で開催する予定であり、大会運営委員長として、古田重明理事(秋田経済法科大学)が選出されたことが報告された。

4. 1998年度予算案の件

総額¥8,331,842円の1998年度の予算案の趣旨説明が河野事務局長よりなされ、賛成多数で承認された。

5. 新入会員の件

17日の理事会前に入会の申し込みのあった者に関し、理事会で審査した結果、4名の入会が承認されたこと、並びに退会会員1名を差し引いた現在会員数が475名(内法人会員1社、学生会員1名含む)になることが報告された。

1998年度総会・研究会報告

1998年度日本選挙学会総会ならびに研究会が5月16日(土)・17日(日)に、学習院大学において開催されました。

第1日目 5月16日(土)

分科会A・B(9時30分～11時30分)

分科会A 国政部会「選挙キャンペーンにおける持続と変化」

- 司会 河田潤一(大阪大学)
- 報告1 森 裕城(筑波大学)
「利益団体の選挙活動」
- 報告2 タイロ・ダブニ(シガン大学)
「日本における1993年総選挙と1996年総選挙の比較」
- 報告3 丹羽 功(富山大学)
「野党の選挙運動における競争と協力」
- 討論 田中善一郎(東京工業大学)

分科会B 方法論部会「政治関連データベースの利用と課題」

- 司会 水崎節文(椋山女学園大学)
- 報告1 谷藤悦史(早稲田大学)
「ESRCデータ・アーカイブの現状と利用」
- 報告2 西澤由隆(同志社大学)
「ICPSRデータの利用と課題」
- 報告3 西川美砂(シガン州立大学)
「R-I-S-Centerデータの利用と課題」
- 討論 山田真裕(関西学院大学)

理事会(11時35分～12時25分)

総会・理事長挨拶(12時30分～12時55分)

分科会 C・D (13時00分～15時00分)

分科会 C 歴史部会「肅正選挙」

- 司会 上條未夫(駒澤大学)
報告1 澤田次郎(尚美短期大学)
「肅正選挙と革新勢力の進出」
報告2 小南浩一(北陸大学)
「肅正選挙下における政党とその支持
動向」
報告3 坂本健蔵(平成国際大学)
「肅正選挙と既存政党の選挙地盤」
討論 波田永実(東海大学)

**分科会 D 比較部会1「ヨーロッパにおける最近
の選挙」**

- 司会 蒲島郁夫(東京大学)
報告1 増田 正(高崎経済大学)
「フランスにおける選挙と政党政治」
報告2 秋本富雄(金沢工業大学)
「1997年英国総選挙報告:英国政党政
治の「ワグニゼーション」」
報告3 阪野智一(神戸大学)
「1997年イギリス総選挙と政党政治の変
容」
討論 河合秀和(学習院大学)

共通論題「選挙研究の回顧と展望」

(15時15分～17時45分)

- 司会 谷 聖美(岡山大学)
報告1 小林良彰(慶應義塾大学)
「わが国における投票行動研究の回顧
と展望」
報告2 綿貫譲治(上智大学)
「投票行動と政治意識研究の諸問題」
報告3 富田信男(明治大学)
「衆議院議員総選挙(1890-1942)の史
的研究について」
討論 三宅一郎(関西大学)
楠精一郎(東洋英和女学院大学)

懇親会・開催校挨拶(18時00分～20時00分)

第2日目 5月17日(日)

分科会 E・F(9時00分～11時00分)

**分科会 E 地方部会「中央地方関係の変容と地方
選挙」**

- 司会 中邨 章(明治大学)
報告1 河村和徳(慶應義塾大学)
「地方選挙における争点としての中央
地方関係」
報告2 新川達郎(東北大学)
「地方議員の選挙活動とその変化」
報告3 北原鉄也(愛媛大学)
「政界再編成と地方政治の変容」
討論 大山礼子(聖学院大学)

**分科会 F 社会心理部会「マス・メディアと選
挙」**

- 司会 柳井道夫(成蹊大学)
報告1 竹下俊郎(明治大学)
「メディア効果理論に関する一考察」
報告2 川上和久(明治学院大学)
「96年総選挙における「広告効果」に関
する研究」
討論 時野谷浩(東海大学)

理事会(11時05分～11時55分)

総会(12時00分～12時25分)

分科会 G・H(12時30分～14時30分)

**分科会 G 法律部会「地方分権と議会・首長・市
民」**

- 司会 網中政機(名城大学)
報告1 妹尾克敏(松山大学)
「地方分権化時代における「住民参
加」の法的諸問題」
報告2 白藤博行(専修大学)
「変革の中の地方分権論」

報告3 岡田信弘（北海道大学）
「住民投票と議会・首長・市民」
討論者：石田榮仁郎（近畿大学）

分科会 H 制度部会「投票率向上方策について」

司会 阪上順夫（松阪大学）
報告1 河野 勝（青山学院大学）
「投票率を考える：東京都議会選挙を題材にして」
報告2 湯浅壘道（慶應義塾大学）
「投票制度が投票率に与える影響」
報告3 河野武司（杏林大学）
「様々な投票率向上策とその効果」
討論 松崎 稔（共同通信社）

分科会 I・J・K（14時45分～16時45分）

分科会 I 比較部会2「アジアにおける最近の選挙」

司会 中野 実（明治学院大学）
報告1 村主道美（学習院大学）
「カボリアの選挙後」
報告2 金 在鎬（延世大学）
「韓国第15代大統領選挙における投票行動分析」
報告3 鳥居 高（明治大学）
「マレーシアの選挙：イスティと「政党」・選挙区」
討論 片山 裕（神戸大学）

分科会 J 理論部会「選挙とインテグレーション」

司会 土倉莞爾（関西大学）
報告1 葉山 明（東海大学）
「カリフォルニア州民投票と黒人等への優遇政策全廃問題」
報告2 田口 晃（北海道大学）
「もう一つの多文化共存モデル」
報告3 加藤秀治郎（京都産業大学）
「東西ドイツの統一・統合と選挙」
討論 森本哲郎（奈良産業大学）

分科会 K 自由論題

司会 阿部四郎（東北大学）
報告1 堤 英敬（慶應義塾大学）
「政界再編期における政党の政策的戦略」
報告2 野口暢子（学習院大学）
「首長・議会・住民投票」
報告3 木暮健太郎（東海大学）
「カダにおける政党システム編成の変容」
報告4 古田雅雄（関西大学）
「国民形成における選挙権拡大の意義について」
討論 田中愛治（早稲田大学）

日本選挙学会新役員

1998年5月16日をもって前役員の任期は終了しました。新しい1998～1999年度期の日本選挙学会の役員は、以下のようになりましたので、お知らせいたします。

【理事長】

芹澤 功（武蔵工業大学）

【理事】

荒木 義修（松阪大学）
石田榮仁郎（近畿大学）
岩井 奉信（常磐大学）
内田 満（早稲田大学）
蒲島 郁夫（東京大学）
上條 未夫（駒澤大学）
川人 貞史（東北大学）
黒川貢三郎（日本大学）
河野 武司（杏林大学）
小林 良彰（慶應義塾大学）
酒井 正文（平成国際大学）
杉本 稔（日本大学）
田中 愛治（早稲田大学）

谷 聖美（岡山大学）
玉井 清（慶應義塾大学）
富田 信男（明治大学）
西澤 由隆（同志社大学）
藤井 徳行（兵庫教育大学）
古田 重明（秋田経済法科大学）
堀江 湛（武蔵野女子大学）
水崎 節文（椋山女学園大学）
森脇 俊雅（関西学院大学）

【監事】

池田 謙一（東京大学）
砂田 一郎（学習院大学）

各委員会役員・委員

1998年5月16日をもって各委員会の前役員の任期は終了しました。新しい1998～1999年度期の各委員会の委員長及び委員は、以下のようになりましたので、お知らせいたします。

【委員長】

企画委員長 蒲島 郁夫（東京大学）
年報編集委員長 田中 愛治（早稲田大学）
文献委員長 荒木 義修（松阪大学）
選挙管理委員長 森脇 俊雅（関西学院大学）

【企画委員会】

池田 謙一（東京大学）
岩井 奉信（常磐大学）
品田 裕（神戸大学）
田中 愛治（早稲田大学）
谷 聖美（岡山大学）
西澤 由隆（同志社大学）
宮野 勝（中央大学）
和田 寛伸（秋田経済法科大学）

【年報編集委員会】

今村 浩（早稲田大学）
岡田 信弘（北海道大学）
川人 貞史（東北大学）
楠 精一郎（東洋英和女学院大学）
河野 武司（杏林大学）
小林 良彰（慶應義塾大学）
鈴木 基史（関西学院大学）
田中善一郎（東京工業大学）
竹下 俊郎（明治大学）
真柄 秀子（筑波大学）
スティーブ・ソリット（中央大学）

【文献委員会】

梅川 正美（愛知学院大学）
梅村 光久（松阪大学）
森 正（愛知学院大学）

【選挙管理委員会】

梅津 實（同志社大学）
中村 宏（神戸大学）

【事務局】

事務局長：河野 武司（杏林大学）
幹事：岩崎 正洋（杏林大学）
幹事：川上 和久（明治学院大学）

各委員会からのお知らせ

【企画委員会から】

御存知のように、次の日本選挙学会の総会・研究会は、1999年5月22～23日に秋田経済法科大学で開催されます。企画委員会各委員の絶大なご協力を得て、研究会の企画は順調に進んでおります。また、開催校の方も、秋田での研究会を、皆様の思い出になる、楽しいものにしたいと計画しておりますので、是非多くの会員のご参加をお願いしたく存じます。

企画委員会では、近年積極的に公募を進めてまいりましたが、今回も多くのお応募を頂きました。ただ、スペースの関係で、すべての応募を採用することができません。選に漏れた方には心からお詫び申し上げます。

今回の研究会の共通論題は、「98参院選」を取り上げることになりました。自民党の勝利が予想されていた選挙で、蓋を開けてみると、自民党の惨敗という結果になりました。「それはなぜか」を多角的に分析するのは、日本選挙学会の務めではないかと考えます。まだ、報告者と討論者は確定しておりませんが、企画委員会でもっとも相応しい人に報告をお願いしたいと思っています。ご期待ください。

報告者の皆様にお願ひがあります。報告者の方には、レジュメと論文の提出義務があります。御存知のように、96年度の企画から、レジュメと論文を提出していただけない方には一律に報告をご遠慮願うことになっております。参加者、とくに討論者や司会者があらかじめ報告の内容を検討する機会を持つことによって、研究会での議論をより実りのあるものにすることができます。また、期日までにレジュメと論文の提出がなされないと、ただでさえ負担の重い開催校にさらなる負担がかかります。どうぞ、レジュメと論文の提出を期日までにお願ひ致します。

なお、当企画委員会は来年と再来年の企画を担当致しますが、会員の皆様には、自由応募も含め、企画に対するご意見やご要望をどしどしお寄せいただければ幸いです。蒲島のEメールは、kabashim@j.u-tokyo.ac.jpです。それでは秋田でお会いしましょう。（企画委員長・蒲島郁夫）

【年報編集委員会から】

本年5月より2年任期で新たに年報編集委員会が発足致しました。『選挙研究』は、前編集委員会（小林良彰委員長）のご努力で第13号からB5版になり質量ともに充実して参りました。第14号では、新委員会が不慣れなことや時間的制約などで、会員の皆様にはご迷惑をおかけしましたが、お陰様

で編集作業もほぼ終わり、現在は印刷の準備を進めております。

第14号には依頼論文8編、投稿論文4編、資料1編、書評論文1編、書評7編を掲載する予定です。公募論文は13本の投稿をいただきましたが、第14号への掲載は4編（採択率30.8%）のみでした。審査が厳しくなったとの印象をお持ちかと思いますが、掲載4編の外に4論文の執筆者には第15号に向けて再修正をお願いしました。『選挙研究』編集史上おそらく初めて、複数年度にわたる修正の継続を導入したわけですが、海外のレフリー誌では一般的慣行ですので、『選挙研究』の質の向上を目指すためのやむを得ない措置として、ご理解いただきたいと思います。

第15号への公募投稿論文を以下の要領で受け付けますので、是非多くの会員の方の投稿をお願い申し上げます（詳細は第14号巻末参照）。

なお、投稿論文の査読審査後の修正期間を長くするため、**投稿の締切が例年よりも1ヶ月以上早くとなっております**ので、ご注意ください。

1. 投稿申込締切：1999年4月30日(金)必着
2. 投稿原稿締切：1999年5月17日(月)必着
3. 提出物： 執筆者氏名・住所・所属・職名・連絡先住所・電話・FAX番号・e-mail、**論文概要**（1,000字程度）、**原稿**（18,964字以内＝400字詰め×約47枚以内；注・参考文献・図表含む）を**4部提出**。**執筆要項**（第14号巻末参照）をご参照ください。
4. 送付先：〒169-8050
東京都新宿区西早稲田1-6-1
早稲田大学政経学部 田中愛治研究室
（年報編集委員長・田中愛治）

【文献委員会から】

文献委員会では、隔年ごとに、会員各位の選挙関連研究の業績一覧表を作成しております。本年度はその年に当たります。「ニュース・レター」の発送に合わせて、この件に関するご案内と「記入上の注意事項」、及び「業績調査票」を同封いたし

ました。記入上の注意事項に従い業績調査票に、1997年1月から1998年12月までの研究業績をご記入の上、文献委員会までご返送いただければ幸甚に存じます。（文献委員長・荒木義修）

【選挙管理委員会から】

本学会の、2000～2001年度期の理事候補者を選出するための選挙は1999年度に実施いたします。「日本選挙学会理事・監事候補者選出規定」第3条に従い、1999年7月1日付けで当該年度を含めて過去3年度にわたり会費未納の方は、選挙権・被選挙権が停止されますので、ご注意ください。（選挙管理委員長・森脇俊雅）

理事会だより

【会員の政治活動・選挙運動について】

本年5月16日に開催されました総会で標記の件に関しまして、出席会員の皆様のご賛同の下、次のような決議がなされましたので、皆様にお知らせするとともに、会員の皆様におかれましては、何卒ご留意いただきますようお願いいたします。
総会決議

「日本選挙学会の政治的中立性を保つために、本学会の会員は、日本選挙学会の会員であることを政治活動や、公職選挙法第3条に定める公職の選挙の選挙運動に利用してはならない。」

【会費滞納者へのお願い】

会費の滞納は、理事選挙、学会報告、年報への論文掲載その他に不利益になることがあります。また学会運営そのものにも支障を来すこととなりますので、過去の滞納分も含め、お支払い下さるようお願い申し上げます。会費納入方法については、「事務局だより」の項をご覧ください。

【科研費による出版助成】

本学会の年報『選挙研究』を発行するにあたって、第12・13号と過去2年は連続で文部省の科学研究費補助金による助成を受けることができました。1999年2月に発行予定の第14号につきましては、残念ながら助成を受けることができませんでしたが、15号以降も継続して助成を受けるべく、申請を行ってまいります。

【新入会員】

昨年度のニューズ・レター以降に新たに入会が認められた方は、以下の通りです。

・1997年度入会者

魚谷 増男（平成国際大学）
北原 鉄也（愛媛大学）
妹尾 克敏（松山大学）
手嶋 政洋（青山学院大学大学院）
古田 雅雄（関西大学）
スティブン・R・リド（中央大学）

・1998年度入会者

江藤 賢一（現代政治経済研究会）
丹羽 功（富山大学）
金星 直規（早稲田大学）
三浦 まり（東京大学）
相原 義信（東京工業大学大学院）
李 利範（大阪大学大学院）
岡田 俊幸（兵庫教育大学）
小河 達之（岡山県理容美容専門学校）
小田 健（天理大学）
柿本 智正（兵庫教育大学大学院連合）
川邊 淳（東海大学大学院）
河野 勝（青山学院大学）
阪野 智一（神戸大学）
萩原 豪（学習院大学大学院）
真柄 秀子（筑波大学）
谷川 智一（明治大学大学院）
小田 義幸（慶應義塾大学大学院）
岡本 弘基（明治学院大学）

前田 幸男（ミシガン大学）
郭 眞英（Ecoha Womans Univ.）
山崎 博久（早稲田大学）
新井 潔（近畿大学九州工学部）
泉谷 洋平（京都大学大学院）

【現在会員数】

上記の異動で、1998年12月現在の会員数は、478名（内法人会員1社、学生会員1名含む）となっています。

【退会会員】

昨年度のニュース・レター以降、下記の会員が退会されました。

青柳 幸一（自己都合）
石塚 康寛（自己都合）
伊藤 勲（自己都合）
井上 寿一（自己都合）
岩崎 清子（自己都合）
大熊 貞夫（自己都合）
片山 紘二（自己都合）
兼近 輝雄（自己都合）
河原地英武（自己都合）
金 相準（自己都合）
金原 左門（自己都合）
小林 克己（自己都合）
斉藤 正人（自己都合）
清水 望（自己都合）
田島 正則（自己都合）
田中 克人（自己都合）
趙 漢義（自己都合）
鶴田 正（自己都合）
土居 正典（自己都合）
八木 秀次（自己都合）
吉崎 輝美（自己都合）
小平 修（逝去）

小平修会員には慎んで哀悼の意を表します。

1 9 9 7 年 度 決 算 報 告

| 収 入 | 支 出 |
|-------------|-----------------|
| (円) | (円) |
| 前年度よりの繰越金 | 総会研究会費 |
| 4,042,084 | 486,900 |
| 寄付金 | 委員会・事務局活動費 |
| 桜田会 | 200,000 |
| 1,400,000 | 会議費 |
| 文部省科学研究費補助金 | 28,592 |
| 250,000 | 通信費 |
| 会費 | 434,765 |
| 3,613,720 | 学生アルバイト |
| 年報等売上金 | 92,800 |
| 34,000 | 謝金 |
| 受取利息 | 120,000 |
| 2,972 | 印刷費(年報13号印刷費含む) |
| 雑収入 | 2,870,718 |
| 100 | 文具費 |
| | 3,316 |
| | 雑費 |
| | 26,073 |
| | 備品費 |
| | 450,870 |
| | 年報発行準備金へ繰入れ |
| | 1,000,000 |
| | 次年度への繰越金 |
| | 3,628,842 |
| 合 計 | 合 計 |
| ¥9,342,876 | ¥9,342,876 |

年 報 発 行 準 備 金

| 収 入 | 支 出 |
|------------|------------|
| (円) | (円) |
| 前年度からの繰越金 | 次年度への繰越金 |
| 4,167,457 | 5,178,640 |
| 一般会計からの繰入金 | |
| 1,000,000 | |
| 受取利息 | |
| 11,183 | |
| 合 計 | 合 計 |
| ¥5,178,640 | ¥5,178,640 |

1 9 9 8 年 (平 成 1 0 年) 3 月 3 1 日

以上の通り相違ありません。

| | | |
|----|-------|---|
| 監事 | 池田 謙一 | 印 |
| 監事 | 平野 浩 | 印 |

1 9 9 8 年 度 予 算

| 収 入 | 支 出 |
|-------------|-------------|
| (円) | (円) |
| 前年度よりの繰越金 | 総会研究会費 |
| 3,628,842 | 500,000 |
| 寄付金 | 委員会・事務局活動費 |
| 桜田会 | 200,000 |
| 1,400,000 | 会議費 |
| 文部省科学研究費補助金 | 50,000 |
| 250,000 | 通信費 |
| 会費 | 450,000 |
| 3,000,000 | 学生アルバイト |
| 年報等売上金 | 150,000 |
| 50,000 | 謝金 |
| 受取利息 | 100,000 |
| 3,000 | 印刷費 |
| | 3,000,000 |
| | 文具費 |
| | 10,000 |
| | 雑費 |
| | 50,000 |
| | 年報発行準備金へ繰入れ |
| | 1,000,000 |
| | 次年度への繰越金 |
| | 2,821,842 |
| 合 計 | 合 計 |
| ¥8,331,842 | ¥8,331,842 |

年 報 発 行 準 備 金

| 収 入 | 支 出 |
|------------|------------|
| (円) | (円) |
| 前年度からの繰越金 | 次年度への繰越金 |
| 5,178,640 | 6,190,640 |
| 一般会計からの繰入金 | |
| 1,000,000 | |
| 受取利息 | |
| 12,000 | |
| 合 計 | 合 計 |
| ¥6,190,640 | ¥6,190,640 |

事務局だより

【会費の納入について】

会費は郵便局を通して納入することができます。
口座番号と会費は以下の通りです。

振込先(加入者名) 口座番号
日本選挙学会 00170-2-31731

年会費

正会員(大学院生以上): 8,000円

法人会員: 50,000円

準会員(学部学生のみ): 2,000円

(それぞれ年報『選挙研究』代を含みます。但し、正会員の年会費は1992年度までは5,000円で、年報代を含みません。)

会費の滞納は学会運営に深刻な支障をきたすのみだけでなく、会員間での取り扱いの不公平をももたらします。

また過去の会費の滞納状況によっては、学会からの事務連絡や、研究会での報告・年報への投稿資格などが、停止される場合もあります(この措置は、1995年5月21日の理事会で決定し、同日の総会で報告・承認された「会費滞納者の扱いについて」に従います。内容の詳細については、『ニュース・レター』第18号に掲載してあります)。本年度の会費のみならず、過去の年度の会費を滞納されている方には、併せてお支払いいただきますよう何卒お願い申し上げます。

なお、会費の納入状況についてのお問い合わせは、事務局長(杏林大学社会科学部・河野武司、TEL:0426-91-0011内線2577、FAX:0426-91-5899)までお願い申し上げます。

【1999年度の研究会・総会について】

1999年度の研究会・総会は、1999年5月22・23日の予定で、秋田経済法科大学(秋田県)で開催

されます。

【事務局への連絡について】

日本選挙学会の事務局は、理事長校の武蔵工業大学に所在しておりますが、事務局幹事は以下の3名が務めております。

事務局長: 河野武司(杏林大学社会科学部)

幹事: 岩崎正洋(杏林大学社会科学部)

川上和久(明治学院大学法学部)

学会事務に関することは、上記の3名にお気軽にお尋ね下さい。また住所や所属の変更などがある場合は、事務局までお知らせ下さい。

なお、郵送でのご連絡は:

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤1-28-1

武蔵工業大学人文社会科学系

芹澤功研究室気付

日本選挙学会事務局

電話でのご連絡は:

杏林大学社会科学部・河野武司

TEL:0426-91-0011 内線2577

FAX:0426-91-5899(杏林大学社会科学部)

まで、いただければ幸いに存じます。

1998年12月

発行: 日本選挙学会事務局

河野 武司

〒158-8557

東京都世田谷区玉堤1-28-1

武蔵工業大学人文社会部門

芹澤功研究室気付

日本選挙学会事務局

TEL 03-5707-1184(直通)

FAX 03-5707-1184(直通)

*事務局の電話及びFAX番号が、新しくなっていますので、ご注意ください。